

表7 特別貸出（昭和49.4～50.3）

貸出し先	件数	冊数
県庁関係	37	89
その他の官庁	33	96
図書館・公民館	31	66
会社・事業所	29	73
報道関係	48	142
学校	34	81
一般利用者	32	46
計	244	593

表8 複写サービス処理件数（昭和49.4～50.3）

資料	件数	枚数
新聞	391	4,351
雑誌	69	1,530
参考図書	646	5,913
郷土資料	601	16,201
一般図書	288	2,421
官報	15	498
特許公報	44	866
その他	3	37
計	2,057	31,817

第4節 館外奉仕

諸物価の高騰は図書の場合も例外ではなく、30～60%の大幅な値上がりを示したが、その影響を最少限に止めるため、単価を極力抑えるとともに、値上がり前の旧定価のものを探し出して購入するなどの対策を講じたので、かろうじて前年度並の冊数を維持することができた。一方図書の極端な値上がりによる個人の購買力の低下は、図書館利用を促進し、移動図書館、地域文庫、本館における貸出文庫の貸出冊数の大幅な伸びを見せた。

1 移動図書館巡回

48年度は石油危機という予期しない事態に直面して、巡回回数の削減を余儀なくされたが、本年度はそうした事態の発生もなく、予定どおり実施できた。

利用総冊数は61,264冊で前年度比40%の増加で、特に県北、県中の伸びが著しかった。しかし、反面、駐車場の中には、運営が良好でないものもあるので、駐車場の統・廃合や設置希望の強い地域への新設など、利用の効率化を図った。

2 貸出文庫

各分館にはそれぞれ平均2,000冊の図書を配置しているが、これらは長年にわたって蓄積されたものだけに、陳腐化は免れない。そこで年度当初に各分館の実情を調査し、利用価値の喪失したものについては本館に引上げるなどの措置を取り、整備を図った。他方、利用冊数について見ると、本館での取り扱いの利用人員、利用冊数とも32.8%の増加であるが、各分館の取扱いはいずれも前年度を下回った。

分館利用を促進するためには、図書の全面的更新と新刊図書の計画的配本が必要であるが、現状では極めて困難な状況にある。

3 親子読書普及活動

親子読書文庫は、新たに下記のところを指定し、既設のものを含めて12か所となった。

- 県北 国見町森江野小学校PTA
梁川町五十沢小学校PTA
- 県南 中島村滑津小学校PTA
- 南会津 田島町栗生沢小学校PTA
- 相双 浪江町浪江小学校PTA

運営面では、各地の要望にこたえて1セット150冊を180冊に増冊して充実するとともに、年間3回にわたって交換を行い有効な利用を図った。

4 広報・普及事業

館報「あづま」は、前年度に引き続き刊行回数の減少を余儀なくされ、3回の発行にとどまったが、内容的には充実を図った。特に3回にわたって連載した「福島県文学碑総覧稿」は、関係者の注目を集めた。

普及事業としては、第22回福島県図書館大会が、須賀川市教育委員会の共催と関係団体の後援を得て、須賀川市中央公民館を主会場として開催された。

- (1) 期日 昭和49年9月10日
- (2) 会場 須賀川市中央公民館 須賀川市図書館
- (3) 参加者 図書館・公民館職員 社会教育関係者
利用者等 約300名
- (4) 内容
永年勤続者表彰
記念講演 「歴史と小説の間」 作家 早乙女 貢氏
分科会
第1分科会 市町村立図書館の設置を促進するにはどうしたらよいか。
第2分科会 図書館等相互の協力体制を確立するにはどうしたらよいか。
第3分科会 貸出しを伸ばすためのサービス体制をどのように作ったらよいか。

また、読書週間記念行事として、ドイツ・アメリカ・イギリスから直輸入された幼児から小学校低学年向きの絵本の中から約350点を選択し、「世界の絵本展」として本館を皮切りに、白河・郡山・喜多方・会津の各市立図書館を会場として巡回展示した。